



地球温暖化とは、日常生活や産業活動で排出される温室効果ガスが大気中の赤外線(熱)を吸収して、宇宙へ直接放出されにくくなり地球の温度上昇が進むことをいいます。地球温暖化が進むと、わたしたちの暮らしにどのような影響が出るのかを見ていきましょう。

地球温暖化の現状

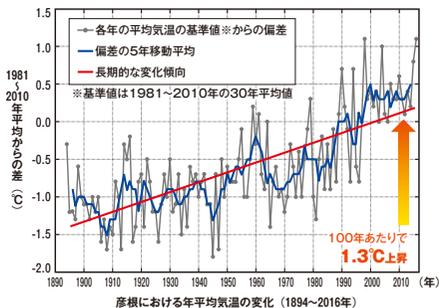


世界の年平均気温…100年あたり約**0.72℃**の割合で上昇
⇒最も温暖化が進むと最大約**4.8℃**上昇



日本の年平均気温…100年あたり約**1.19℃**の割合で上昇

滋賀県内(彦根)の年平均気温の変化



(彦根地方気象台提供)

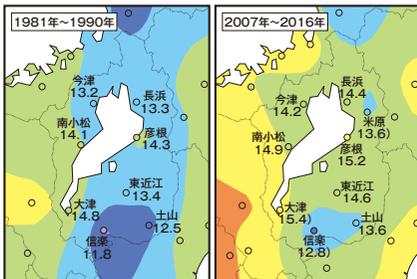
滋賀県内(彦根)の平均気温は、100年あたり約**1.3℃**(統計期間1894~2016年)の割合で上昇しています。



21世紀末(将来気候、2076~2095年を想定)で、滋賀県の年平均気温は約**2.9℃**上昇するとの予測

滋賀県の年平均気温上昇比較

11 12 13 14 15 16 17 18(℃)
)は準正常値



(彦根地方気象台提供)

滋賀県内のアメダス観測所の1981年から1990年と2007年から2016年の平均気温です。14℃以上(緑色~黄色)の領域は広がり、14℃以下(水色~青色)の領域は減少しています。

温暖化の影響

滋賀県ですでに起こっている温暖化の影響

農業

夏の高温の影響により、白未熟粒や胴割粒が発生し、一等比率米が低下。一部の野菜で収量や品質が低下。



▲白未熟粒 ▲胴割粒

畜産業

牛、豚、鶏の畜産業において、夏期の飼育環境の悪化や生産性の低下。

水環境

暖冬であった2006年~2007年と2015年~2016年、琵琶湖で全循環の遅れが発生。

自然生態系

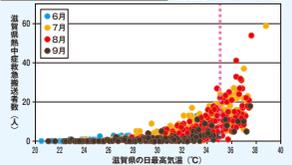
滋賀県内ではあまり見られなかった南方系のツマグロヒョウモン(蝶)が増加。



熱中症

気温が高くなる初夏から初秋にかけて、熱中症にかりやすくなり、特に、最高気温35℃を超える時、搬送者数が急増。

滋賀県内の熱中症搬送者数と最高気温(県内のアメダス)
(熱中症搬送者数は総務省消防庁のデータを利用)



※滋賀県の日最高気温とは、県内のアメダスでその日観測した最高気温の一番高かった観測点のデータ。

開花時期

さくら(そめいよしの)の開花日経年も長期的に見ると、50年あたり4.0日の割合で早くなっている。



(彦根地方気象台提供)

将来予測される温暖化による影響

農業・畜産業・水産業



作物の収量や品質が低下。
畜産物は生産量が減少。
水温上昇や琵琶湖の全循環の遅れによる水産業への影響。

水環境・水資源



琵琶湖および河川の水環境への影響。
渇水が頻発化、長期化、深刻化し、さらなる渇水被害の発生。

健康



暑熱による熱中症搬送者数の増加。
感染症の原因となる蚊やダニなどの節足動物の分布可能域が変化し、感染症のリスクが増加。

産業・経済活動



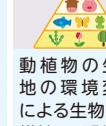
極端な気象現象の増加による産業への直接的・物理的な被害。
気候変動に対する新ビジネスのチャンスが生まれる。

自然災害・沿岸域



短時間強雨や大雨の発生頻度が増加すると、水害や土砂災害が発生し、周辺地域の生活に与える影響が増加。

自然生態系



動植物の生息地の環境変化による生物の多様性への影響。

国民生活・都市生活



短時間強雨や渇水頻度の増加、強い台風の増加等によるインフラ・ライフラインなどへの影響。

今必要とされている適応策とは

温室効果ガスの増加

化石燃料使用による二酸化炭素の排出など

気候要素の変化

気温上昇、降雨パターンの変化、海面水位上昇など

温暖化による影響

自然環境への影響
人間社会への影響

緩和

温室効果ガスの排出を抑制する

適応

自然や人間社会のあり方を調整する

[出典] 環境省「温暖化から日本を守る 適応への挑戦2012」



温室効果ガスの排出削減が一番重要だけれども、これからは**適応策**についても考える必要があるんだよ!



裏面で詳しくご紹介します!

適応策 私たちに何ができるのか

滋賀県が実施している適応策

地球温暖化が進み、私たちの生活に影響が出たときに備えて、県は様々な対策を進めています。

●夏の暑さに強い、新しいお米「みずかがみ」

県では、夏の暑さに強い「みずかがみ」の作付拡大や温暖化に対応した水稲新品種の育成に取り組んでいます。滋賀県が育成した「みずかがみ」は、夏の暑さに強く、品質が安定して良い早生品種です。ほどよい粘りとまろやかな甘味があり、冷めてもおいしいのが特長です。平成28年産米食味ランキングにおいて、2年連続で最高ランクの「特A」を獲得しました。



●「しがの流域治水」の推進

流域治水政策とは、どのような流水にあっても **(1)最優先で人命が失われることを避ける** **(2)生活再建が困難となる被害を避ける** を目的とし、自助・共助・公助が一体となって、川の中の対策に加えて川の外の対策を、総合的に進めていく政策です。

4つの対策を総合的に実施

ながす

河川の改修工事、適正な維持管理

ためる

グラウンドや森林などでの雨水貯留

そなえる

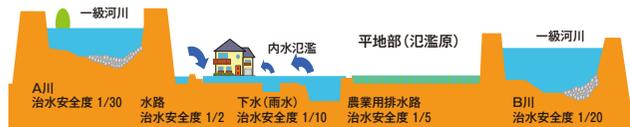
図上訓練、避難計画の作成、防災訓練

とどめる

宅地の嵩上げ、土地利用規制

●リスクを知らねば始まらない! 流域治水の基本情報 地先の安全度マップ

滋賀県では、大河川だけでなく、身近な水路のはん濫なども考慮した地先の安全度マップ(水害リスク情報)を平成24年9月から公表しています。身近な水路のはん濫も考慮しているのは、全国でも滋賀県だけです。



「防災施設(河川の器の大きさ)の安全度」ではなく、「地先=人々の生活する場の安全度」を示しています。

滋賀県防災情報マップを確認!▶



個人でできる適応策



私たちにできることを考えよう!

「適応策」は、自分たちで、家でもできる簡単なものもたくさんあります。私たちにできることを考え、まずはできるところから始めてみましょう。

●水資源の対策●



将来雨の降らない時期が長くなる可能性があることから、大切な水の使い方を見直しましょう!

●自然災害への対策●



大型化する台風や急な大雨などに備えるため、身近な場所の水害・土砂災害リスクを知り、いざという時に行動できるように日頃から避難について考えておきましょう。

●熱中症への対策●



お出かけ前に気温や暑さ指数を確認して、熱中症にならないように気をつけましょう。熱中症の対処方法を学んで備えておきましょう!

●暑熱による生活影響への対策●



グリーンカーテン
暑さから我が家を守るため、グリーンカーテンをはじめてみましょう!

●感染症への対策●



感染症対策のため、蚊やダニなどに刺されない、増やさないようにしましょう!

打ち水



水をまくことで地面の温度を下げることができます。お風呂の残り水など二次利用水を使いましょう!

冷感グッズの活用



うちわや扇子、冷却ジェルシートなどの冷感グッズを活用しましょう!

